

私が介護をするうえで大切にしているのは、「笑顔」です。

介護に対する世間のイメージは薄月給であったり、排泄物を扱うこともあることやニュースで報道されているような虐待が行われているといった何かしらの悪い印象をパッと思い浮かべる人が多いのではないかと思います。

実際にトイレのお手伝いを行っていくことは日常茶飯事であり、排泄物の付着したおむつ類を処理しなければなりません。正直、大変です。しかし、介護にはその後に利用者様から「ありがとう」という言葉と笑顔が付いてきます。そのような思いは私たち介護に携わる者でしか知ることが出来ません。利用者様から笑顔を頂くことやコミュニケーションがより深まり、利用者様のちょっとした変化が気になり食事の様子（いつもは食べるのに今日は食べないな）や排泄物の変化（尿の色がいつもと違うな）から感じ取るのも、介護では特別なことではありません。関わりを増やしていくことで徐々に利用者様から信頼されるようになり、中には親しみを込めて下の名前です　さんと職員のことを呼んでくださっている方もいます。私が介護の仕事に就いてやりがいを感じるのは「ありがとう」の一言と笑顔をいただいた時なのです。

また、認知症の方で直近の出来事は忘れてしまっている、若かりし頃に自分が一番輝いていた頃や昔住んでいた場所、働いていた頃のことは鮮明に覚えていて、いきいきとした表情で語ってくれる方もいます。歌が好きな利用者様がいれば、昔の曲を職員と一緒に歌うとその周りの利用者様も一緒に口ずさんだり、歌ってくれたりする光景も見受けられます。歌は世代という枠を飛び越えて、関係性を築いてくれる架け橋のような物でもあります。私の勤めている施設においても、利用者様の方でハーモニカを得意としている方がおり、演奏を依頼すると快く引き受けてくださっているため、演奏には職員、利用者様双方のその場にいる人たちが和まされています。

利用者様は十人十色で自分がどうしてここにいるのか、ここはどこなのか認知症のために分からなくなってしまう方がいます。私たちから見れば常に目にしている方ですが、その人からすれば介護者の顔だけでも認知してもらえないまでは常時「はじめまして」の状態です。私たちでも初めての方とお話しする機会があった際は、笑顔を見せてくれた場合の方が接しやすくその後も関係を深めることが出来るきっかけになってくれると思いますが笑顔の大切さを教えてくれたのは介護なのです。

介護はもちろん大変な仕事ではありますが、やりがいを感じる仕事でもあります。介護の仕事を考えている人には是非、この道に足を踏み入れてもらいたいです。

介護福祉士　齋城 佑弥